



気になるあの人に チューモク!! 6

絵本の世界から飛び出てきたような 大正生まれの浦島太郎

三代目浦島太郎 ^{やまだ} ^{かなめ} **山田 要**さん(詫間町・96歳)



「浦島太郎と同じく、若いころは釣りが好きでした」と話す山田さん

36年間、浦島伝説を語り継ぐ

代表的なおとぎ話として挙げられる浦島太郎のものがたり。詫間町庄内半島にもその伝説は語り継がれています。「浦島太郎が生まれた里『生里』、乙姫さまからもらった玉手箱を開けたとされる『箱』、玉手箱の煙がたなびいた山『紫雲山』など、こんなにも浦島伝説と当てはまる地名がそろっているのは、全国でも庄内半島だけですね」と話す山田要さん。

結った髪と長いひげ。そして着物と腰みのを身に着けて釣竿を持つその姿は、まさに玉手箱を開けた浦島太郎そのものです。

山田さんは昭和58年から3代目浦島太郎として、地域のPR活動に取り組んでいます。旧詫間町時代には、友好都市を結んでいたアメリカのタコマ市を訪問し、現地の子どもたちに浦島伝説を教えたこともあるそうです。

「いろいろなイベントに参加して、子どもたちに、『私は誰でしょう?』と問いかけると『うらしまたろうさん!』と答えてもらえます。みんなに知ってもらえていることがありがたいなあ」

浦島太郎としての活動も36年目。とつても元気な山田さんの年齢は96歳と聞いて驚く人も少なくないはず。「まだまだ浦島太郎として元気に生きたい。100歳、いや、もっと長いこと頑張るで」と笑う山田さん。いつまでも笑顔の素敵な、みとよの浦島太郎さんでいてほしいですね。



▲文字や絵を器用に描いた貝細工。もらえた人はラッキーかも



▲5月9日、詫間町内の子どもたちと一緒に花摘みをしました(記事は10ページ)



▲浦島太郎就任当時の山田さん。玉手箱は手作りです!

史 上初の10連休といわれたゴールデンウィークも、あっという間に終わりましたね。今、市内では香川高専生による「プログラミング教室」やプロの脚本家による「映画制作スクール」が始まっています。取材にいくと、子どもたちが目を輝かせて取り組む姿を目の当たりにし、今後の子どもたちの活躍にますます期待が高まります。



季節のお便り募集
住所、氏名(ペンネーム)、電話番号を明記の上、写真や文章を添えて秘書課へ郵送またはメール(hisho@city.mitoyo.lg.jp)でお送りください。
▶問い合わせ 秘書課 ☎73-3001



詫間支所北側の海浜公園にある浦島太郎像。私の大好きな場所です。(詫間町・たくまのひと)

暮らしのエピソードや風景写真、広報の感想を募集
季節のお便り